

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

— 第3号 —

平成20年7月20日発行

発行 草加市立病院

編集 経営管理課

〒340-8560 草加市草加二丁目21番1号

☎ 048 (946) 2200(代)

HP 草加市立病院 [検索](#)



記念式典(獨協大学天野貞祐記念館にて)



記念講演後の花束贈呈
(右から東京医科歯科大学医学部長 大野 喜久郎氏、
同大学医学部附属病院長 坂本 徹氏)



高元俊彦病院長によるあいさつ



病院ボランティア「クローバー」による合唱

市立病院 新たな飛躍をめざして

草加市立病院開設50周年 記念式典を開催

草加市立病院開設50周年記念式典が6月21日に、獨協大学天野貞祐記念館で行われました。当院の関連大学である東京医科歯科大学の病院長をはじめ、地域医療機関の医師、市立病院関係者など約400人が参加。市立病院の前身である草加町国民健康保険直営診療所の開設以来、半世紀の歴史を振り返り、さらなる飛躍を誓いました。

式典では、高元俊彦病院長が「医療技術者として高い目標を持ち、日々研鑽に努め、草加市民に信頼される病院として成長し続けたい」と決意を述べました。続いて東京医科歯科大学長からお祝いの言葉をいただき、同大学臨床教育研修センター長の田中雄二郎教授からは「教育病院として大学に負けない立派な医師を育成して頂きたい」と激励を受けました。

また、記念講演では東京医科歯科大学医学部長で脳神経外科教授の大野喜久郎氏が「脳卒中の診断と治療の進歩」と題して講演。脳がいかに複雑で重要な臓器であるか、また、近年の脳卒中を引き起す原因となる生活習慣病、喫煙・飲酒の害などについて解説されました。(講演会の関連記事は3面に)

いま、市立病院と大学病院の連携で 新たな半世紀の繁栄へ

東京医科歯科大学医学部附属病院

病院長 坂本 徹



草加市立病院開設50周年、誠におめでたいと思います。政府の国民総医療費抑制政策の下、地域からは医師が引き上げ、高齢化と少子化の中で自治体病院の運営には大きな負担がのしかかっています。しかし、草加市立病院はこのような逆風を乗り越え、ここ数年で小児科の増強、産科の再開、救急部の新設など大きな飛躍を成し遂げました。

開院当時の草加市の人口約3万4千人から現在は24万人を超え、この間に日本は世界に例のない早さで高齢化が進みましたが、草加市の人口ピラミッドは30代後半と50代後半をピークとする「二重の塔」型を示し、非常に活動的な構成となっています。一方では、市職員の意識改革も進み、平成18年発表の全国自治体ランキング・生産性部門では448市区中第1位に評価されています。また、一般職の人員削減を進める中で、医療関係者の増員を確保することは、市民の健康生活確保のための行政の強い熱意が根底にみえます。

今後も草加市立病院が市民の健康増進に貢献し、大学とさらなる機能連携を深め、末永く共に発展していくことを心より祈念致します。

地域に輝く市立病院をめざして

草加市病院事業管理者(兼)病院長

高元 俊彦



草加市立病院開設50周年にあたり、これまで病院を育てていただいた草加市行政、医療関係者、市民の皆様、ひとことご挨拶と御礼を申し上げます。当院は、昭和58年に東京医科歯科大学から鈴木文男病院長を迎えたのを契機に、大学の主要な関連病院として大きな発展を遂げ、今日の18診療科まで成長して参りました。

しかし、4年前に待望の新病院がオープンした直後から、深刻な医師不足のありを受け、産科など一部診療科が休止となつて経営状況も悪化するなど、厳しい体験を致しましたが、職員一丸となつてこの困難を乗り越えてきました。ここで草加市立病院の5年先、10年先に思いをはせれば、我々の到達点はまだまだ道半ばであります。一層の地域医療連携を進め、2次医療機関として癌、脳血管障害、消化器、循環器疾患などのセンター化構想、小児の夜間休日診療、高齢者の救急医療など、直ちに取り組みを開始しなければなりません。

これから、私たちは草加市民の健康と医療を守るといふ高い使命感をもち、高度な医療技術を展開できるための修練を日々重ねて参りたいと思います。